

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。早いもので九月。朝晩は冷え込む日もあります。くれぐれもご自愛ください。

お釈迦様の教えを噛みしめながら、社会や人のあり方を考える「耕平さんかわら版」。昨年の夏から、「三法印」「四法印」「四苦八苦」「四諦八正道」「三学」「三苦」「三業」「三毒」など、いろいろ勉強したのもうすつかり悟ったと思いたいところですが、そうはいかないのが仏教の奥深さ。

「さ」と「る」という言葉も、漢字を当てると「悟る」と「覚る」がありますが、さて、どちらが適切でしょうか。漢訳仏典では「覚る」が用いられています。そう、覚王山の「覚」。「覚王」とは「覚った王」、つまりお釈迦様の別名です。

「苦」の本質、「欲」と「苦」の関係など、かわら版を読みながらいろいろと考えてくださった皆さんは、「覚

り」は得られていません。何しろ、どのようなことが原因で「苦」が生じるか理解したのですから、既に「覚り」を得ています。「苦」から解放される考え方や行動のあり方を知った段階で、やはり「覚り」を得ています。

ところが、ご指導いただいている高僧がかつて次のようにおっしゃいました。曰く「覚るのは難しくない。しかし、解脱とは別だ」。そう、「覚り」と「解脱(げだつ)」は別物であり、仏教は「解脱」の心境を説いています。

例えば、仏教の「五戒」は「不殺生戒」「不偷盜戒」「不邪淫戒」「不妄語戒」「不飲酒戒」。生き物を殺してはいけない、嘘をついてはいけない、お酒を飲んではいけないなど、「戒め」の内容は理解していますが、実はなかなか守れません。「知る」ことは「覚る」こ

とですが、知ったことを「実行できる」状態になることが「解脱」です。「解脱」することで煩惱や苦がなくなり、スッキリした安からな心境になれるのです。そのような心境を仏教では「涅槃(ねはん)」と言うそうです。

人殺しはいけない。当たり前のことです。だから、戦争は避けなければなりません。しかし、国と国の間では、双方が正義のためと称して戦争を行います。

「覚る」ことはできても、「実行する」ことは難しく、「解脱」して「涅槃」の境地に至ることは容易ではありません。だから日々精進が必要となります。

仏教の教えは、日常生活においても、政治においても、多くの気づきを与えてくれます。ではまた来月。

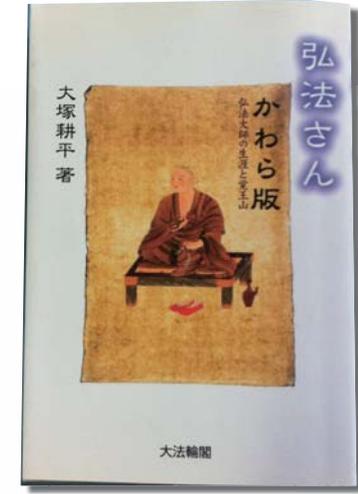
※



かわら版執筆者 大塚耕平

愛知県名古屋市生まれ。知立と並んで「弘法さん」の縁日で有名な覚王山が出身学区。地元の歴史・文化の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆し始めて13年目。昨年からは、覚王山日泰寺に続いて知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務。2001年から参議院議員。内閣府副大臣、厚生労働副大臣等を歴任。現在、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授を兼務。



弘法さんかわら版

弘法大師の生涯と覚王山

覚王山版の第1号から第78号は、2008年に大法輪閣から本になって出版されました

好評発売中

大法輪閣
(仏教書の老舗出版社)
営業部：電話 03-5466-1401

